

【校長室便り】

No.14

H30年6月21日(木) 土佐町小中学校 谷内宣夫



梅雨とはいえよく雨が降ります。雨天の日は、自転車置き場には、自転車が数台。雨がっぱを着て自転車で登校している中学生は少ない。この自転車置き場の様子と車で送り迎えをしている様子を見て、約20年前に受け持っていた生徒とそのお父さんのことが思い出された。

「こっついお父ちゃんの話」

「恥ずかしいがやったら、学校へ行くな！」

数年前の5月1日のことです。私の学級の生徒のお父ちゃんが家で大声で怒鳴りました。それから数分後、学校に電話がありました。そのお父ちゃんからでした。

「うちの息子、学校へ傘さして行こうとしよったき、今日は学校へは行かせませんので」と一言。

受話器を置いて、えらいすごい人のおもんだ、と思いました。それから数年たった、今年の6月。



そのお父ちゃんと話をする機会を得ました。

「先生、あん時のこと覚えちゅうかえ？」 「・・・？」

「あしが、うちんくの子を休ませた日のことよ。何で休ませたか、先生らわかちゅうかえ？」



「いえ、ようわかりません」

「ほんなら話をするき、よう聴きよってよ。実はね、あの日『何でカッパを着いて行かんのか。』と、子どもに聞いたがよ。

そしたら、うちの子『カッパはカッコ悪い』と一言言うたがよ。

あしは、その言葉に腹が立って、『恥ずかしいがやったら、学校へ行くな』と怒ったがよ。『カッパが恥ずかしい』という言葉が

許せんかったがよ。何で許せんか、わかるかえ？」



「いいえ・・・」

「先生、そんなこともわからんかえ」「先生らあカッパ着て一日中仕事したことあるかえ？梅雨時にカッパ着て仕事しゅう者のしんどさがわかるかえ？朝から晩までカッパ着て仕事しゅう者の思いがわかるかえ？」



「実は、あしんくのお父さんのカッパは、お祖母ちゃんが息子のために買ってくれたものよ。

お祖母ちゃんは、雨の日は朝から晩までカッパ着て、しんどい思

いをして、老体にムチ打って頑張りゆうがよ。

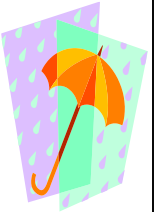


知っちゅうかえ、おまんらあ」

だんだんお父ちゃん目がつきあがってきて、真剣な目つきになってきました。『カッパはカッコ悪い』という言葉。カッパ着

て一生懸命労働に汗を流しゆう者に対する侮辱や！

汗水流して、働きゆう姿が何でカッコ悪いがで。



確かに、カッパは着るのがめんどくさいかもしれん。

こればあたくさんの者が傘さして自転車乗りよったら、

『カッパはカッコ悪い』と、子どもが思うのは当然かもしれん。

けど、一生懸命に働きゆう者を愚弄するような言葉を、

あしは絶対に許せんがじゃ。



それで、子どもを休ませて、その話をしたがよ。子どもも涙流

してわかってくれたき。家庭でもこればあ、子どもと闘いゆうがで、おまんら先生もちゃんとしいよ！」 「ハイ」

【平成5年 高知市立城北中学校1年6組学級便りより】

雨の日、カッパを着て登校する生徒はほとんどいません。歩いて傘をさして登校する児童生徒も少ないです。中学校1年生の池竜輝君と中山嵩斗君は、雨の日にきちんとカッパを着て自転車で本山の方から登校しています。私の車が横を通ると元気に挨拶してくれます。家族に頼らない姿勢がいいですね！エライと思います。もちろん他にも家族に頼らずに自力で登下校している子どももたくさんいます。家庭の教育方針も素晴らしいのでしょう。しかし、土佐町小中学校の現状は、家族に車で送ってもらっている子どもが実に多いと感じます。(雨天でなくても多い) 雨の日に学校入り口付近は、保護者の車で混雑することがよくあります。学校にいる間に雨が降り出したら、電話で「迎えに来て」と連絡をしている子どもの姿を多く見かけます。「迎えに来て・・・」「何で来れんが・・・」「早う来てや・・・」等、迎えに来るのが当たり前のような感覚で電話をしている子どもも見かけます。

また、朝送ってもらって降りるとき「ありがと。行ってきます」という言葉や、迎えに来てくれた時に「ありがと」という言葉をあまり聞かないのはなぜなのでしょう？

危険なほどの土砂降りでない限り、カッパを着て自転車で登校させるか、歩いて登校させるべきだと思います。

歩くということは、脳を働かせて活性化させるのに良いことは様々な実験から実証されています。歩く距離が長い生徒のほうが成績が良いこともわかっています。

また、過保護に育てないようにすることも大切です。身の回りに不便なことがなければ工夫しなくなりますし、どうしてもできるようになるのか考えなくなります。

子どもに不自由な環境をあえて作ったり、与えなければ、自分で考え最善の方法を導き出して実行しようとする態度や意識も育ちにくくなります。家族がやってくれるのが当たり前になれば、「感謝」する気持ちも育ちにくくなります。

自分のために様々なことを行ってくれている家族への感謝の気持ちを持たせなければなりませんし、そういう心遣いに気づく感性も育てなければならぬと思います。

私たち大人が「生きる力」が育ちにくくなる環境を作らないようにしていくことが大切ではないでしょうか。

感謝の気持ち・気づく感性 育っていますか？